

500→600 にしたお茶



放射能基準が500から100ベクレル/kgに改定された中で、基準が実質的に緩和されたのが、お茶です。いま、どんなお茶が出回っているのか確かめました。

「茶葉」→「飲む状態」で検査

4月から、一般食品の放射性セシウムの基準が500から100ベクレル/kgになりました。

お茶は「茶葉で500ベクレル」から「飲む状態で10ベクレル」と変更されたのですが、ここに危ない秘密が隠されていたのです。

検査方法の通りにお茶をいれると、お茶の放射能濃度は茶葉の60分の1になります*。

ということは、お茶が10ベクレルなら、茶葉は600ベクレルになります。

つまり、お茶の基準は、100ベクレル緩和されていたのです。

今年のお茶は、基準にしたがって「飲む状態」で測定されています。調べると、基準を超えているものが多く、栃木県産で24ベクレル、茨城県産で19ベクレル、千葉県産で14ベクレル、岩手県産で11ベクレルです。

栃木県の24ベクレルは、茶葉に換算すると1440ベクレルとなるので、今年も高い数値が出ていることがわかります。

埼玉県の狭山茶も、最大8.2ベクレル出ているので、茶葉では492ベクレルということになります。

基準が高くなり、出荷できることになったので、昨年収穫して不良在庫になっていた600ベクレルまでの汚染茶葉は、そのまま販売して在庫処分できるようになりました。

もし、600ベクレルを超える茶葉があったら、飲むときに10ベクレルを下回るよう、他の茶葉をブレンドして売ればいいのです。

お茶の新基準は、ベクレルの数値を小さく見せながら、日本人全体に放射能を飲ませ、病気を増やす施策でした。

静岡茶も200ベクレルを超えた

静岡県のお茶は、今年はすべて不検出と公表されています。ところが、検出限界は2ベクレル程度なので、茶葉では100ベクレルを超えている可能性があります。

そこで、市販茶葉の実態を確かめるため、スーパーなどで煎茶、ほうじ茶、玄米茶など13種類を購入し、茶葉を検査しました。

検査は、さいたま市の民間放射能測定所「さいたまラボ」に依頼し、NaIシンチレーション検出器(AT1320A)で測定。検出限界を20ベクレルとしました。

分析結果をまとめたのが右ページ表です。

「不検出」の茶葉は、飲む状態では0.4ベクレルを下回るのので、一応安心して飲むことができます。

最も高かったのはC社の静岡県産の煎茶で、211ベクレルでした。

100ベクレルを超えると、原発の中では低レベル放射性廃棄物としてドラム缶に詰めなければならないのに、原発の外では、この茶葉を販売しても違反になりません。

他の静岡茶からも数十ベクレル出ていますが、静岡県産でも不検出のものが1つありました。静岡の中でも汚染の少ない地域の茶葉が、震災前の茶葉を使っていたのでしょうか。

番茶は、「国産」は不検出。「静岡県産」番

*「飲む状態」の茶の検査は、茶葉を30倍量の重さの熱水で浸出し、ろ過したものを使う。お湯に溶け出すセシウムは、日本茶業中央会によるとおよそ50%なので、 $1 \div (30 \times 2) = 1/60$ となる。

茶葉の放射性セシウム

検出限界は 20 ベクレル /kg

種類	産地	放射性セシウム (ベクレル /kg)	商品名	製造・販売
煎茶	静岡県	不検出	静岡やぶ北新茶	栗田園
煎茶	静岡県	74.1 ± 16.1	—	A 社
煎茶	静岡県	85.8 ± 15.4	—	B 社
煎茶	静岡県	211 ± 33.8	—	C 社
芽茶	静岡県	80.6 ± 13.8	—	C 社
抹茶入り煎茶	国産	不検出	伊右衛門	福寿園
緑茶	国産	不検出	ホームサイズ緑茶	伊藤園
番茶	国産	不検出	やわらぎ番茶	伊藤園
番茶	静岡県	32.4 ± 8.68	—	D 社
ほうじ茶	国産	不検出	ほうじ茶ティーバッグ	日本茶販売
ほうじ茶	国産	119 ± 19.9	—	E 社
抹茶入り玄米茶	国産	不検出	玄米茶ティーバッグ	日本茶販売
抹茶入り玄米茶	国産	31.0 ± 7.05	—	E 社

※ メーカーには責任がないのと、一般的な注意が必要なので、検出された茶葉の社名は伏せました。

茶は 32 ベクレル出ました。

ほうじ茶は 2 種類とも「国産」。不検出と、119 ベクレルだったので、国内のどの産地の茶葉を使うかで、数値が大きく異なることを示したデータになりました。

「国産」と書かれたお茶は産地が特定されていないので、危険性のレベルがわからないので、避けるのが賢明です。

ほうじ茶で 119 ベクレルだった E 社は、玄米茶でも 31 ベクレル出ました。

西日本のお茶を

三重県の「わたらい茶」は、三重県の環境放射能調査によると、昨年の茶葉で 9 ベクレル、今年の茶葉で 1 ベクレルとなっています。

茶葉でこのくらいの数値なら、安心してお茶を飲むことができます。

これからは、愛知県から西のお茶を選びましょう。お勧めは、京都の宇治茶、福岡の八女茶、鹿児島島の知覧茶などです。

ペットボトルは

ペットボトルの緑茶は、大手のものは国産

茶葉を使っていて、今年の製造分から、震災後にとれた昨年の茶葉が使われています。

「伊右衛門」など、西日本産の茶葉だけを使用したものを選びましょう。

麦茶の大麦から 340 ベクレル

栃木県や茨城県は大麦の主産地で、この大麦が麦茶にも使用されています。

昨年収穫の六条大麦は、栃木県産で 89 ベクレル、茨城県産で 340 ベクレル。それらの大麦を使っているので、全国麦茶工業協同組合による国産麦茶の検査でも、68 ベクレル出しています。

茨城県産大麦を使用した麦茶をスーパーで購入し、茶葉を測定すると、17.7 ベクレルでした。

六条大麦は、福井県や富山県も産地なので、「福井産大麦」なら安心できますが、「国産大麦」の麦茶は避けた方が無難です。

伊藤園「香り薫る麦茶ティーバッグ」は、国産とカナダ産の大麦を使用していましたが、震災後はカナダ産だけに変更しています。このような、カナダ産の麦茶なら安心です。